

すべての生徒に特別支援の観点を取り入れた環境整備・指導ができることをめざして

八王子市立櫛田中学校



あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子



本研究の主な目的(市教委資料より)

＜教育課題研究推進校として期待される効果＞

特別支援教室の拠点校として、拠点校のメリットを活かした校内環境の整備や巡回における実践について、研究を推進し、得られた成果を市立学校で共有する。

研究の主な取組内容

拠点校であることを活かした取組を実施する。

- (1) 特別支援教室を利用している生徒の情報共有や事例研究を行う。
 - (2) 特別支援教室の授業を教員が観察し、特別支援に関する環境整備や指導方法について理解する。
 - (3) 特別支援教室の教員が学年や教員全体に研修、助言を行う。
- (番外) Hyper-Q-U 研修

梶田中学校の特別支援教育

☆特別支援学級(知的障がい) Ⅰ組

→対象：就学相談により認定を受けた生徒。

☆特別支援教室 アシスト

→対象：就学相談により認定を受けた生徒。正式入室には、WISC等の発達検査を受ける必要がある。

☆サポートルーム(登校支援教室) ひだまり

→対象：学校に登校できるが教室に入れない生徒や、体調不良以外で一時的な休養を必要とする生徒。

《拠点校であることを活かした取組》

(1) アシストへの入級のための保護者会を入学式当日に実施

【メリット】

- ・新入生並びにその保護者に向けてアシスト教室の利用目的やガイダンスを説明できる機会を別日に設定しなくても済む。
- ・できるだけ早い時期からアシスト教室の授業の準備や開始ができる。
- ・入学式に顔合わせをすることで、アシスト教室に通う生徒へのアプローチがよりやりやすくなる。

【デメリット】

- ・入学式が終わって学級活動が終わった後に実施したため、日程の調整が難しい。
- ⇒次年度は、入学式が始業式の2日後に設定されているため、比較的余裕をもって準備などに取り組むことができると思われる。

(2) 学年集会(学年開き)にてアシスト教室のガイダンスを実施

⇒アシストの教員がいれば、担当が行うことが可能だが、今年度は不在だったので、特別支援コーディネーターが代行した。

アシストを利用している 生徒ってどんな人？

上手くできないことや苦手なことが
いくつか（たくさんではない）あって、
手助けして欲しいと思っている人

『中学校の生活で必要な力』の中の
苦手を克服する方法を教わりたいと思っている人

(3) 特別支援教育研修

⇒特別支援教室を利用している生徒の情報共有や事例研究を行う

- ① 週に１度実施（水曜２校時）校内特別支援委員会での各学年の生徒情報の共有
- ② 夏季休業中に若手教員・希望者向けの校内研修を実施

○特別支援教育の基本編

- ・発達障害の理解と支援
- ・八王子市の就学相談について

○特別支援教育の実践編

- ・発達検査等の読み取り方

～WISCなどの検査結果を基にどのように指導に活かすか～

- ③ 不登校対策の自主研修（講師：梶田中スクールカウンセラー）

※学校心理士スーパーバイザーも担当



(3) 特別支援教室の教員から学年や教員全体に研修、助言を行う

検証授業 5月27日 第1学年5組教室 学級活動『アサーショントレーニング』



授業の進め方

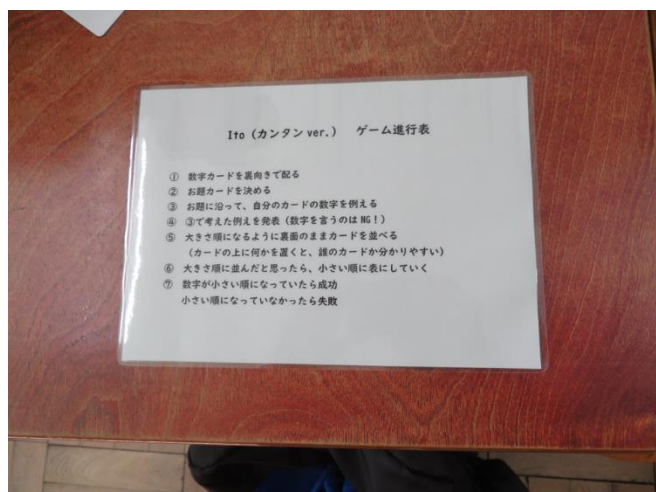
- ・『こんなとき、あなたならどうする?』という日常でのありそうなことにふれてみる。(例)あなたがラーメン屋に行って、しょうゆラーメンを注文したのに店員がみそラーメンを持ってきた。あなたは店員に対して、どう対応する?(何か言うか?) 等
- ・アサーションについて(別スライドにて教師が説明)
- ・ゲームの説明と今日の授業の内容・目的の確認をする。

アサーショントレーニングの進め方と教員の連携

4人班で構成。学級担任が目的やルールなどの確認事項を生徒に伝える。

なお、アシスト教員(3名)については、

1人が人数不足の班に入って一緒に活動。1人は机間指導。1人は別室でモニタリング。



アサーショントレーニングの目的および方法

- (1) レクリエーション形式を取り入れ、学級内での活動を通じて自他尊重や他者理解の精神を養う。
- (2) 自分の伝えたいことを考えて上手に伝えること。相手の意見を聞くこと。
相手の伝えたいことや気持ちを酌み取ること。これらのコミュニケーション能力の向上をめざす。

生徒の感想(一部)

- ・新しい班にすぐになじめてよかった。難しいお題もあったけど完全にバラバラってことはなかったから新しい班に期待できそう。
- ・順番が違ったときに相手が傷つきそうな言葉を言ってしまった。
無意識に言っていたので、いつも気付いてないうちに相手を傷つけてしまったかもとしれないと気付かされた。
- ・新しい班になって、班のみんなと仲良くなれるいい機会だと思った。
- ・相手によってジャイアンタイプやのび太タイプになってしまう時があったので、しずちゃんタイプになりたいなと思った。

アシストの先生方より

- ・早口・・・情報の処理に必要な生徒にはつらい。
- ・間がない・・・常時音が聞こえている状態だと聞いた情報を処理する時間がない。
『聞く』と『考える』が同時にできない生徒は聞いてるだけで考えないので内容が沁みていかない。もしくは、途中で考え始めてその間の話が耳に入らない。
- ・盛り上がっている、とか、楽しんでいる、とは違う。一度授業を止めて今回のテーマを確認させ、そのつもりはなくても相手を否定するノンアサーションになっていることを伝える必要がある。
- ・話を聞かせるとき、注意を向けさせるためには椅子の向きを正面に向けさせるのもあり。机が横になるので手遊びするものが目の前になくなるし、視線も話している教員に向きやすい。(理科室等の特別教室でよくやる方法)

成果と課題

成果

- ・全教員が特別支援教育に関しての理解が深まった。
- ・実際にアシストを利用している生徒を事例として取り上げることで、具体性が高まり、指導に役立つヒントを得られる。
- ・生活指導での教員間の連携が深まっていった。

課題

- ・拠点校ではあるが、担当の教員が毎日いるわけではないので何かトラブルがあったときの初期対応が遅くなる。
- ・アシスト教員の人員不足。

<その他>（番外） Hyper Q-U 研修

本校では、6月頃と11月頃に全生徒を対象に Hyper Q-U を実施した。今年度は、校内研修の学校全体テーマを『Hyper Q-U を活用した学級集団づくり』と設定し、2回の分析結果を踏まえて特別活動等に活かした指導を行った。

Hyper Q-U を活用した学級集団づくりは、次年度以降も引き続き行っていく。

